

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

平成 29 年告示の学習指導要領では、子どもたちに身につけさせたい「資質・能力」が示され、これらの「資質・能力」をはぐくむために、各教科等に固有の物の見方や考え方を意識することの重要性が示された。家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方として、「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等について考えさせることが求められている。本学は教員養成の単科大学であることから、小・中・高校の教員となる学生が、「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等の視点により、家庭科の授業を行うことができるような教員養成教育を行う必要があると考える。とりわけ、家庭科における住生活の授業を行うことができる力は、で生活の営みに係る見方・考え方としての「健康・快適・安全」を中心として、「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等の視点を学生自身が今の自分自身の生活に重ね合わせて学習することにより、獲得されるものと考えられる。また、そのようにして獲得した見方・考え方は、総合的な学習の時間等、家庭科以外の住生活の学びのための授業実践においても活用されるものと考えている。

特別支援教育、養護教諭養成教育、家庭科教育といった異なる専門性をもつメンバーからなる申請者らは、試行錯誤を重ねながら本申請書と同様の趣旨をもつ実践を3年間行ってきた。今年度は雁木町家のくらしをより感じ、意識できることを意図した授業展開を構想している。具体的には、空き家が増え続ける現状において、雁木町家の維持・存続に関する活動をしている社団法人から、雁木町家を一定期間借り上げ、そこを拠点として、昨年まで行ってきた授業内容をバージョンアップさせて、展開するものである。

2. 学習予定の概要を（イ）（ロ）に触れながら以下のA. B. C. 3点について記入してください。

（イ）気づき（児童生徒に気づきをどう促すか）

（ロ）自ら調べ考える（児童生徒にどう考えさせるか）

A. 中心となる活動

雁木町家での活動（上越市高田地区）とバリアフリーマップアプリを用いた情報発信

町家を見る・町家を体感する・雁木のまちを歩く

みる・体感する・歩く際の視点はバリアフリーである。車椅子に乗り、車椅子を押しながら、雁木のまちを歩く。また、まちあるきには車椅子ユーザーに参加してもらい、共に学ぶ機会とするとともに、適宜解説を加えてもらう。これらが気づきにつながると考える。〈（イ）気づき〉

みて・体感して・歩き、気づいたこと、思ったことも踏まえながらバリアフリーマップアプリを用いて情報発信する。まちあるきルートを各班で調べ行い、まちあるき等を通して、思ったこと、考えたこと、バリアフリー情報等を発信することは、自ら調べ考えることにつながると考える。

〈（ロ）自ら調べ考える〉

B. 授業の狙いと特徴（住生活向上の視点を含めてお書きください）

本授業の特徴は、全国からの入学生からなる本学の学生が、上越のまちにでて、上越のまちで、バリアフリーを視点として、住まうということについて学ぶ。そこで、感じ、思い、考えたことを通して得た学びを自分自身で再構成し、発信することにある。

バリアフリーを視点とすることの意義は次のように考えている。第一に、障害がある者はその障害を補完するために、障害がないとされる者よりも様々な制限を受けることが多いことから、障害はその社会における改善すべき課題を可視化すると考える。

学生がこの地域で学びくらす4年間は学生にとっては、一時的過渡的なものであるのかもしれない。しかし、キャンパスから地域にでて、地域をみつめ、地域で学び／地域に学ぶことは、卒業後、どの地域で教員になろうともいきてくると考えている。そのような成果を期待しつつ、本授業を行う。

生活文化としての雁木町家のまちで、安全としてのバリアフリーの視点をもとに、また多様な人々と共に協力・協働してまちあるきをし、それをまとめることを通して、共にくらし共に生きるにつながる住生活を考えることは、住生活を総体としてとらえることの必要性に気付くことにつながると思われる。このことは学生自身の住生活の向上だけでなく、将来教員として授業を展開する際にもいかされ、そのことにより、児童生徒の住生活の向上にも寄与しうると思われる。

C. 学習の流れ（指導計画）（全 90 分×10 コマ）

1 次：学内での車椅子体験と振り返り（90 分×1 コマ）

2 次：雁木町家のまちあるき計画をたてる（90 分×1 コマ）

3 次：雁木町家での活動：車椅子体験を中心に：（90 分×4 コマ）

- ・公共交通機関による移動（大学⇄高田）
- ・まちあるき（バリアフリーの視点で）
- ・雁木町家のくらしを体感（バリアフリー、異世代の視点で）
- ・上記活動で思ったこと、感じたこと、考えたこと等の共有
- ・バリアフリーマップアプリ：Wheelog! を用いてバリアフリーマップ情報を発信
- ・体験の振り返り

4 次：雁木町家のまちでの学びをまとめる（90 分×3 コマ）

- ・ポスター、動画、フォトブック等小冊子の作成及びワークショップ計画・準備等

5 次：雁木町家での学びを伝える（90 分×1 コマ）

- ・教育フェスタ等の機会で雁木町家のまちでの学びを伝える（1 次からの学びのまとめと発信）

3. 授業とガイドライン「住教育の領域」との関りについてお書きください。

本授業は、「住生活の領域」の4. 住まいと環境を軸として行うものである。雁木町家を拠点とし、雁木町家を歩く。活動には、車椅子ユーザーや雁木のまちの維持・存続に取り組む人物等と共に学ぶ機会を組み込むことから、1. 人とすまい、3. 住まいと社会の内容にも緩やかにつながるものである。このことは学生にとって、多様な価値観と出会い、今の自分の住生活をみつめなおし、今の自分の住生活を起点とした、住生活の創造につながるものと考え。さらに、児童生徒が自分の住生活をみつめなおし、その時点の自分の住生活を起点として、住生活を創造していくことができるような住生活の学習を展開する力を備えた教員としての資質の基盤を培うことにつながることを願っている。

その他特記事項がありましたらお書きください。

「住教育授業づくり助成応募申請書（大学用）」の下側にあるガイドラインの該当する領域に○をつける箇所についてです。申請書には複数可とありますが、web ページ上では、複数選択することができない設定になっておりました。そのため、一つだけ選択いたしました。ご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

※ページが複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。